

あしながてなが
足長手長

ー

ふくしまけん あいづぼんち

福島県の会津盆地といえは、むかしからおいしいお米がたく

こめ

さんとれる、とてもいいところす。

やま

山にかこまれたこの盆地の西には、磐梯山という山があり、

ぼんち

にし

ばんだいさん

やま

ばんだいさん

その 磐梯山のふもとには、猪苗代湖という大きなみずうみが

いなわしろこ

おお

ありました。

はなし

あいづ

むらびと

あさはや

た

むかしむかしのお話です。会津の村人たちは、朝早くから田

はたけ

こめ

んぼや畑に出て、とてもよくはたらき、おいしいお米ややさい

をたくさん そだて、みんなしあわせにくらしていました。

とし

あしながてなが

ところが、ある年のことです。足長手長という、「①」

あしなが

あし

とお

があらわれました。足長はとても足が長く、どんなに遠いばし

たか

やま

あし

よでも、どんなに高い山でも足をのばせばとどいてしまいます。

問ー 「①」には、どんなことば

が入るとよいでしょう。

ア かわいいうさぎ

イ 火をふくドラゴン

ウ ふつうのおじさん

エ おそろしいかいぶつ

「
」

手長のほうは、おそろしく手が長く、どんなに遠いところのも
のでも、手をのばしてつかんでしまいます。

足長手長が、話しています。

「おい手長よ。ここは、いいところだなあ。でゅふふふ。」

足長が、きもちわるいわらいかたをしながら言うど、

「そうだねえ、足長。いたずらのやりほうだいだねえ。ひやつ
ひやつ。」

手長も、きもちわるいわらいかたをしながら、へんじをしま
す。

まず、足長が、足をのばし、あちこちから雲をあつめてきま
した。

雲は会津盆地をおおいつくし、あたたかい日の光をさえぎ
ります。

問2 足長手長は、どんないたずらを
しましたか。「」にあうことばを
かきましよう。ひらがなでかいてもかま
いません。

・毎日毎日、足長は

「」をあつめて、日の光
をさえぎり、手長は水をすくつ
て、「」をふらせます。

つぎに、手長が、猪苗代湖の水をすくっては、雲の上からばらまきます。

すると、盆地には、たちまち大雨がふって、村をおそいました。毎日、毎日、足長は雲をあつめ、手長は雨をふらせます。ずっとふりつづける雨に、村人たちは、こまってしまいました。

「お日さまの光がないと、さくもつが大きくならねえだ。」

「このままでは、さくもつがくさっちゃまう。」

「食べるものがなくなったら、死んじゃうだ。」

③ こまっている村人たちを見て、足長と手長はおよろこびです。

「でゅふふ。見て、見て。あいつら、すぐくこまってるぞ。」

「そうだねえ。ひゃっひゃっひゃっ。たのしいねえ。」

問3 — ③ こまっている村人たちを見た、足長手長は、どんなきもちになりましたか。

ア およろこび。

イ かわいそう。

ウ はらがたった。

「
」

「でも、なんかあきてきたなあ。」

「つぎのいたずらをやろう。」

あしなが てなが

足長と手長が、いったんいたずらの手を休めますと、雨がや

て やす

あめ

④

ひ

ひかり

んで、雲のあいだから、お日さまの光がさしてきました。

問 4 — ④ お日さまの光がさして

ひ

ひかり

きたのは、なぜですか。

ア いたずらばかりする足長に、手長が

あしなが

てなが

ちゅういしたから。

イ 足長手長が、いたずらの手を休めた

あしなが てなが

て やす

から。

ウ 足長手長を、村人たちがやっつけ

あしなが てなが

むらびと

たから。

「」